

ローカル線切り捨て、国家改造攻撃許すな！

7・14 国土交通省に申し入れ行動

動労千葉と動労総連合は7月14日、国交省に対して「鉄道事業者と地域の協働による地域モビリティの刷新に関する検討会」の中止を求める申し入れ行動

を行った。「ローカル線を殺すな！」と国交省前で大書された横断幕とノボリを立て、霞が関の労働者に訴えた。

検討会は7月中にも結論をとりまとめ、JR在来線―地方ローカル線の大規模な廃線化を打ち出そうとしている。

検討会は、ローカル鉄道の危機的状況の責任を地方自治体に転嫁する方向で議論し、こうした議論を背景にJR各社は、「バス転換を含めて見直しを進める線区」として赤字線区の収支を公表するなど、前のめりに廃線化を加速させる方向で一斉に動き出した。

検討会では、輸送密度2千人未満の線区（全体の39%）を対象に、廃線・バス転換を主要な選択肢

として検討が進められている。しかし現実に行進している事態は、2万に及ぶバス一般路線が廃止され、タクシース会社も撤退し、交通手段を完全に失っている地域が多く生まれている。

千葉でも直通列車廃止や運転本数の削減、特急列車の廃止など意図的に乗客が乗らないように仕向けられてきた。

JR北海道、JR四国などの現実が示しているのは、35年前の国鉄分割・民営化が破綻し失敗に終わったことであり、採算制や株主価値を行動原理とする民間企業では公共鉄道網を維持することはできないことだ。

闘う労働組合を甦らせ新自由主義を終わらせよう。ローカル線・地域切り捨てに対して全国から闘いをつくりだそう。

7・22国交省デモ（正午・日比谷公園霞門）に結集を！



内房線と地域を守る会が総会

今後の活動に向けた活発な討論

内房線の特急や直通運転の削減に反対するなど地域の住民運動を進めている「内房線と地域を守る会（梅澤代表）」が7月3日、第6回総会を開催しました。

総会では会の活動として、昨年3月に外房線・太東駅で発生した乗客の転倒・骨折という重大事故を千葉支社がまったく公表してこなかったことについて



ニューヨーク アマゾン物流倉庫で初の労組結成

米国のニューヨーク州スタテン島にあるアマゾンの拠点物流倉庫で4月1日、労働組合の結成をめぐる投票が行われ、賛成多数で決まった。

アマゾン社ではたびたび労働組合結成が試みられてきたが、投票で可決したのは今回が初めてだ。8500人が働く職場で投票総数4785票のうち賛成が2654票となり、反対の2131票を上回った。

世界最大の小売業者であるアマゾン社の株価はこの10年で25倍に膨らみ、時価総額で150兆円を超える。新型コロナウイルスによる「巣こもり需要」を取り込み、物流拠点を拡充しており、この2年で倍増の勢いだ。

最高経営責任者（CEO）のジェフ・ベゾスは「近代史上で最も裕福な人物」と言われる。ベゾスは労働組合を毛嫌いすることでも知られ、一貫して労働組合の結成に反対してきた。既存の大手労組もアマゾンの組織化に乗りだし、複数の物流倉庫で投票が行われたがいずれも結成に解雇される。

離職率も業界平均の2倍を超す。国際労働組合総連合（ITUC）はジェフ・ベゾスを「世界最悪の上司」と呼ぶ。労働者の使い捨てをやめさせるために労働組合が必要だとの声が根強くあった。



労災発生が2倍

アマゾンの物流倉庫の仕事は肉体的にも精神的にもきつくと危険で過酷な労働環境だ。労災事故が非常に多く、21年には前年から38%増の3万8千件の負傷事故が起きている。フルタイム従業員百人あたりの深刻な負傷の件数は6.8件で、他社の倉庫における平均（3.3件）の2倍を超える。猛暑で熱中症で倒れる労働者が続出した時は、あらかじめ倉庫の外に救急車を待機させていたと揶揄されたほどだ。

効率性とスピードのためにAIなどを駆使した自動システムによって労働者の業務と休憩などをアルゴリズムで割り出して管理する。労働者の動作が遅れるとマイナス評価となる。労働者の倉庫内の移動距離は1日20キロ以上あり、病気で仕事を休めば懲罰の点数がつけられ、簡単に解雇される。

米国の巨大企業の中でとりわけ反組合の姿勢が強いアマゾンでの労働組合結成は「労働運動の歴史的な転換点」を示す象徴的な出来事として受け止められている。

米国の労働運動は、08年のリーマンショック以降、さまざまな模索があり着実に運動が前進してきた。ジェネレーションレフト（左傾化する若者世代を指す言葉）と呼ばれる若者を中心に労働組合の再評価も強まっている。

「労働運動の歴史的転換」を示す象徴に

米国では、スターバックスで昨年12月、ニューヨーク州の店舗で初めて労働組合が結成された。続く半年で150店舗で組合が結成された。グーグルでもソフトウェアの技術者らが労働組合を結成した。6月18日にはアップルストアの従業員が労働組合を結成した。

世論調査では、米国で労働組合に賛同する割合は09年に48%で過去最低を記録後、徐々に回復し、昨年8月に実施された調査では68%、1965年以来の高水準となった。

物流倉庫で働く労働者は入れ替わりが激しく、さまざまな種類の雇用形態の労働者が入り混じっている。製造業などの従来型の職場とは異なり労働組合の結成が難しいと言われてきた。日本と違って米国では労働組合の結成は難しい。まず職場労働者の30%以上の署名を集めて全米労働関係委員会（NLRB）に提出しなければならない。NLRBは投票を実施し、過半数の賛成が得られれば結成が認められる。

21年4月にも別のアマゾン物流倉庫で組合結成の動きがあったが、この時は反対票が6割を占めて実現できなかった。アマゾン社の反組合キャンペーンの物量はすさまじい。弁護士やコンサルタントを動員して、組合加入のデメリットを説明する集会に従業員を参加させ、反対ポスターをトイレの中にも掲示する。組合支持を示す労働者を解雇する。徹底的に労働組合に対するネガティブなイメージを刷り込み、投票箱を監視カメラが映る場所に設置し、従業員に報復の恐怖を与えた。

組合の平均年齢は27歳。年齢が、年輩の労働者に対して「子や孫がここで働かなければならない場合はどうしますか？」と語りかけた。そして自分の私生活語り、過酷なシフトで働いていること、わずかな自由な時間を犠牲にしても組合をつくりたいとの熱意を伝えた。

組織化のスタイル

アマゾン物流倉庫で労働組合の結成を決意した元従業員のクリスチャン・スモールズ氏は、「ソーシャルディスタンスを取るスペースがない。安全対策をとって欲しい」と要求したところ、即日解雇された。

解雇されたスモールズ氏は仲間と共に「アマゾン労働組合（ALU）」を立ち上げた。ALUは既存の大手組合には入らず独自の道を選んだ。「労働者は外部の勢力（オルグ）に頼るのではなく、自らが立ち上がりなければ組合はできない」という主眼的な変化があった。

ALUの組織化戦略は、一対一のオルグ、電話、会議、アンの運動こそが世界に希望をもたらす――こういう言葉が人びとの心に響く時代が来ている。

「社会問題を解決するツールの一つとして、人類が労働組合を再発見しつつある」「労働者の運動こそが世界に希望をもたらす」――こういう言葉が人びとの心に響く時代が来ている。

動車・鉄鋼工場など女性や黒人など非熟練工の組織化を展開）の組織化活動のマニュアルだった「製鉄産業における組織化手法」がモデルとのこと。

ALUは、一部のグループではなく常に新しい人びとと毎日話すことを活動の目標とし、すべての労働者との関係を築こうとした。組合支持の強いシフトや部署を割り出し、その傾向ごとに丁寧な話をした。そういう姿勢が倉庫内の支持を広げていった。

特に重視したのは、食事や休憩時間などの労働者一人ひとりと対話だ。組合の中心メンバーは、休みの日も倉庫に行き、1日10時間、休憩室に常駐し、対話を続けた。

組合の平均年齢は27歳。年齢が、年輩の労働者に対して「子や孫がここで働かなければならない場合はどうしますか？」と語りかけた。そして自分の私生活語り、過酷なシフトで働いていること、わずかな自由な時間を犠牲にしても組合をつくりたいとの熱意を伝えた。

米国の労働運動の世界では「人生は1度きり」という言葉が流行語になっている。1度きりの人生、低賃金の職場で先の見えない仕事を続けるのではなく労働組合を作って職場を変えようとの趣旨だ。

「人生は1度きり」

米国の労働運動の世界では「人生は1度きり」という言葉が流行語になっている。1度きりの人生、低賃金の職場で先の見えない仕事を続けるのではなく労働組合を作って職場を変えようとの趣旨だ。

「人生は1度きり」